

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200080		
法人名	社会福祉法人 静岡和洋福祉会		
事業所名	グループホーム 浜屋		
所在地	静岡市駿河区中島2566-6		
自己評価作成日	令和元年 9月 11日	評価結果市町村受理日	令和元年 12月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和元年 10月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私共の施設では開所当時から「あたりまえの生活と寄り添う介護」を理念に掲げています。今まで自宅で生活してきた中で、普通にやってきたこと。ここに来てそれは変わらずに出来る。そんな「あたり前」の事が継続できる為には、職員の意識の持ち方が大事になってくると考えています。入居者様一人一人の生活を充実させる為には、職員が互いに意見を出し合い、共通の理解の基でケアを行う事が大事になります。チームワークは誇れる点です。入居者様同士も互いに助け合って生活を送られています。入居者様・ご家族様・職員・地域の皆様沢山の方々に支えられている、温かい施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駿河湾が目の前に広がる日本家屋の事業所は、母体である特別養護老人ホームに隣接している。周辺には民家が多く、散歩中に農作物を有人販売する地域の方と話す機会も多い。事業所独自の運営方針「あなたらしさを大切に、優しい気持ちで過ごせるよう、ご近所と笑顔でつながる」の3本柱を常に意識して、入居者と共に当たり前の生活を過ごしている。現在は入居者と職員が共に女性ばかりとあって、日常生活はもとより家族や近隣の方々の来訪時もおしゃべりが絶えず交流の機会も多い。情報の共有もされており、入居者や家族、地域との連携の上で普通の日常生活が過ごせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念「あたり前の生活と寄り添う介護」に加えて、地域密着型として三つの副題を掲げています。地域の皆様との関わりをいつも意識できる様に、理念と共に和室に掲示をしています。	法人理念「あたり前の生活と寄り添う介護」を主に事業所独自の理念を掲げている。理念と共に和室に掲示し、職員一人ひとりが事業所の理念を理解し、地域とのつながりを大事に入居者と関わっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(運動会・浜のなかま・どんど焼き・敬老会等)自治会長をはじめ、民生委員の方々にもいつもお声掛けを頂き参加をさせて頂いています。また、散歩の際には有人販売などに行ったり、歩いていると挨拶をして下さる方々もいらっしゃいます。	民生員が公民館で開催するレクリエーション「浜のなかま」に月1回程度参加している。運動会のパン食い競争に地域住民の一員として入居者、職員共に常に参加し、地域活動としても必要とされている。有人販売では、農家の人々と会話など触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、民生委員の方や自治会長、包括支援センターの方々も参加して下さいます。その中で、今の課題や時期的に必要なと思われる知識(感染症や熱中症)のレジュメを発表しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告とヒヤリハットは毎回必ず報告させて頂いています。様々な視点からの改善策やご意見を頂いています。事故に対して違う視点で捉えた意見を下さる為、とても貴重な機会だと感じています。	2か月に1回の会議には、家族や管理者、計画作成者、地域包括支援センター職員、自治会長、民生員が出席している。事業所からは事故報告などの現状報告や活動報告を行い、参加者からの具体的な意見を課題として検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、毎回市の介護支援課、地域包括支援センターにお声掛けをさせて頂き、出席して下さっています。会議の前後等、施設の状況やその他でコミュニケーションを図らせて頂いています。	市介護保険課職員は年1回運営推進会議に出席している。地域行事への参加や地域との関わりなどについて意見をもらっている。事業所内の研修の講師をお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	浜屋では基本的に身体拘束はしていません。委員会を設け、職員がその都度自分自身を振り返る事が出来る様に勉強会を行ったり、言葉の使い方なども虐待に当たるという事を念頭に置いて業務に取り組んでいます。	3か月毎に委員会を設け、職員が全員参加できる時間に勉強会を行いケアの振り返りや言葉の使い方など話し合っている。事業所が広いため、特に職員の見守り方法を検討、徹底している。玄関は施錠せずに入居者が外出しそうな時は声かけなどで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体でも勉強会を行っているので、職員が参加出来る様に促したり、シフトを組んでいます。日々の生活の中職員と入居者様が衝突してしまいそうな時には、別の職員が対応する等臨機応変に行い、虐待という事が絶対に起こらない様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記に該当する入居者様がいらっしゃらない為、勉強会などを行ったりはしていませんが、いずれ該当し得る可能性も踏まえて、職員の会話の中に出てくる事があります。その為にももっと専門的な知識を身につける必要があると感じています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時又は契約の変更があった際には、ご家族様と直接お話しをさせて頂いています。全入居者様に該当する契約変更等の際は、運営推進会議などでお話をさせて頂く事もあります。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に面会に来て下さる頻度が多いので、その際に話した会話で必要と感じられた事は他の職員と共有をしています。また、面会が難しいご家族様に対してはご自宅に伺い日頃のご様子やご家族様の想いを直接お話させて頂いています。	入居者は近隣の方が多く、頻繁に家族が来訪している。また、食事会や敬老会などの行事で家族同士が顔見知りになり、何でも話してもらっている。出された意見や要望等はミーティングで話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はいつでも職員の様子や思いに耳を傾けてくれているので、どの職員も皆、自分の意見を言いやすい環境が出来ています。自分の意見がケアに反映される事でモチベーションも向上していると思います。	現在の入居者と職員が全員女性という事もあり、意見が出しやすく、利用者との関わりから職員全員が課題等を共有している。個人面談は年1回管理者が行い、職員から勤務体制や配置異動の話の聞いている。事業所の設備修理時には代表者が立ち会っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はいつも職員の様子を把握しようとしてくれているし、想いを聞いてくれています。それが、仕事内容や勤務日の調整、精神的な事も関係なく聴いてくれているので職員は皆、生き活きと働ける環境にいるのだと思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で毎月行われている様々な研修には常勤・非常勤職員関係なく参加しています。人によって習得の幅は様々ですが、研修の後に互いに意見を言い合う事が自然に行われており、研修後のアプローチをしっかりと行う事が出来ていると思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて交流会に参加したり、今年度は「浜屋CAFE」を行い、他事業者様を招く機会を作ったりしました。法人内の交流としては、親睦会などの食事会以外にもフットサルや個人で食事に行ったりスポーツをしに出かけたりする事も多いです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活歴を聞いて把握し、日々の会話の中で不安な事は無い、要望は無い等、の情報収集をしたり、1対1でお話を聞き、慣れない環境での生活でも安心して頂ける様に努めています。出来るだけ笑顔で、明るい声で話す様に心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の要望は何かをしっかりと聞き、否定から入る事がない様に努めています。その事項を職員間で共有しより良いケアに繋がる様にしています。また、ご家族が話をし易い雰囲気作りも心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他職種や他事業所との連携をはかり、今はもちろん今後に繋がるケアの方針を考えて提案出来る様に努力しています。今すぐ必要な件に関してはなるべく協力出来る様に対応し、ご家族様のバックアップが出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来ることややりたい事(特いな事)を見極めてお手伝いをして頂いています。職員がケアをするだけの関係では無く“一緒に暮らす”家族の様な繋がりや絆を目指して日々の生活を送っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や買い物、外出等はご家族様にお願いをして、行って下さっています。ご本人様が何を望んでいるのかという点と、ご家族様の状況をすり合わせ、可能な形で希望の実現に繋がる様にご協力を頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所(昔から知っている所・同法人のデイサービスなど)に行く。ご友人とのお手紙のやり取りへの援助、お電話等の介入を行っています。また、面会に来て下さる方もいるので、周りの皆様のご協力あつての事だと思っています。	自分が住んでいた自宅や地域のお寺などへ入居者はドライブに出かけている。個々のアセスメントで生活習慣を把握し、面会者が居心地の良い時間を過ごせるように職員全員で支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが良好な関係でいられる様に仲介に入っています。日によって状況が違うので、その方に合った対応や声掛けを行っています。一人が孤立してしまわない様に空気を見ながら、話を振ったりレクへ参加して頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々、お電話をして近況を伺ったり、転院された入居者様の施設にご家族様と一緒に伺わせて頂いたりしています。先日「ご家族OB会があれば参加したい」と話して下さったご家族様も何名かいらしたので実現出来たらと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でのリズムや決まり事等を把握しケアに反映出来る様に対応を考えています。時には1対1になってご本人様の思いや要望を聞き取り、何が必要なのか、把握する様にしています。	思いや意向は入居者との関わりの中や、入浴介助時などリラックスしている時間の会話で把握している。今までの生活や環境を家族から詳しく聞き取り、入居者を交えて意向を話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様からお話を伺い情報提供書を作成し、職員で情報共有しています。入居後も、ご家族様から、どんな生活をしてきたか？どの様な物が好きなのか？等のお話を伺っています。ご本人様と昔の写真を見ながらお話を伺う事もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月個別処遇を見直して、会議で話し合いを行い生活の充実に繋がる様に努めています。お一人お一人の気持ちに沿ったケアが出来る様に、会話の中から想いを汲み取る努力をしています。職員も心に余裕を持って落ち着いたトーンで話せる様に心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を細かく残すことで、ご本人様の意としている事は何かを探り、評価し易い目標に設定してプランを立てる様にしています。毎月の職員会議の中で随時個別の処遇を見直し、プランだけでは収まらない様な事も改善出来る様に対応しています。	日頃のケア方法などは細かい記録から職員全員でモニタリングを行い、職員会議やミーティングで計画を立て直している。介護計画は、利用者の状況や支援方法が具体的に作成され日常のケアに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事を記録に残して共有する事はもちろんですが、それだけでは伝わらない事に関しては、会議をはじめ職員同士みんなで話をして意見交換を行っています。対応に関して悩みがあれば相談し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内で完結しない様にあらゆる社会資源を利用する様に心掛けています。地域の行事や、訪問介護、往診、美容院、同法人スタッフからの指導など、ご本人様の意向に沿ったケアを提供出来る様に日々考えて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会でされる行事「浜のなかま・運動会等」に参加させて頂いたり、散歩の際に声を掛けて頂いたり、無人販売(農家さんがいる)で会話をしながら買い物をしたり交流を持たせて頂いています。入居者様の事を気にかけて下さる方も多くなっているのを実感しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともと通われていた病院に引き続き通院をお願いしています。今までの入居者様のお身体を理解して下さる先生に継続して診て頂く事で、馴染みの関係性が保てると思っています。	入居者ごとにかかりつけ医が異なるため、症状説明等直接の対応に間違いがないように家族付添いの通院をお願いしているが、薬の受け取りは職員が協力することもある。利用者2名が最近徒歩圏内に開設した近隣の他法人の診療所を利用している。	現在家族の協力により通院できているが、今後家族の高齢化等に対応するためにも通院の協力体制を整えることが望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活でのちょっとした変化を看護師に伝える様にしていきます。看護師の所見から、必要と思われた場合には受診をする等のアドバイスを毎回受けています。また、訪問看護を利用している方に関しては訪問看護師とも情報共有をして、適切なケアに繋がる様に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員もなるべくお見舞いに行き、その都度入居者様の状態把握が出来る様、看護師や医師から情報収集しています。また、日頃の施設でのご様子を病院側にお伝えし、病院での生活や、そこからの退院がスムーズに行える様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いざその時という訳では無く、日頃から、終末期または重度化した時にどういう形を取りたいかを御家族様と話す・意見を聴く様にしてはいますが、その時になってみないと分からない事や感情もあるので、その都度お話をしています。その為にも日頃からの関係作りも心掛けています。	看取り場面を想定した年2回の研修を浜屋会議又は法人内研修で行っている。入居者には入居時に指針による説明を随時している。この10年で6名程の看取りがあった。入居者の心のケアは通夜でお別れをしたり心に寄り添うことでフォローしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、全職員がAEDの講習を受けています(AEDはなごみに設置してある)万が一に備え対応出来る様にしています。緊急時マニュアルを作成し、行動がスムーズになる様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での避難訓練と、施設での訓練や確認動作等必要と思われる事の一つ一つこなしています。大規模災害時のBCMマニュアルの作成に伴い、避難先であるなごみでの生活環境の確認も行っています。	事業継続計画のマニュアルが整備されている。6月と11月の年2回は法人全体の訓練と共に、東日本大震災以降は津波想定をして、地域の総合防災訓練に参加している。震災の際には津波警報の発令により、隣接の同法人施設に避難している。昨年は豪雨の影響による停電があり、非常食や防災用具を活用し対応した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人に聞かれたくない事等は1対1でお話をする様にしてます。お手伝いをして下さった際には「ありがとう・助かっています」という感謝の気持ちをしっかりと伝える様にしてます。周りの方との兼ね合いもあるので皆さんが心地よく居られる様に対応を図っています。	一人ひとりの思いを汲み取り、感謝の気持ちを伝えている。部屋の扉を閉めたり、トイレの動作を察知して先回りするような配慮をしている。また、離設の際には一緒に散歩する等して、入居者の気持ちや性格を尊重し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で「飲み物・食べたい物・着たい服・今日入浴したいか?・昼寝をしたいか?散歩に行くか」等、沢山の選択肢があります。その都度ご本人様に伺う様にしています。また、その際には、回答がし易い様に選択肢を絞って選んで頂く様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、なるべく「ちょっと待って」という言葉は使いたくないので、職員間で声を掛け合っ、すぐに対応に当たれる様にしています。生活のリズム(臥床時間や排泄)も、その方に合った対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容(髪型・衣類の汚れ等)が整っているかを常に気にかけています。何か行事がある際には、お化粧やネイルをして、より楽しみになる様にしています。訪問理髪では、希望の髪型やカラーを伝えて対応して頂いたりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際には、皆様の希望をメニューに組み込んだり、季節にあった献立を入れたりしています。食事の支度も出来る範囲でお手伝いをお願いします、食器洗いも各々皆さんに行って頂く事で食べるだけで終わらない様にしています。	聞き取りで好き嫌いの嗜好を把握している。お茶碗や湯飲み、箸は私物を使っている。洗い物や盛り付け等で調理にも参加している。職員も一緒に食事を摂り話をしながら和やかな時間になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いなものや苦手な物は調理方法や味付けを変え、食べられる物で提供をしています。一度に水分を摂る事が苦手な方に関しては、飲みやすい物や提供時間等の工夫をして対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは必ず職員が付き添って、磨き残しが無い様に、仕上げ磨きを行ったり、舌磨きを施行しています。訪問歯科の医師にアドバイスを伺ってケアに反映させています。全員が毎食後に口腔ケアを行っていないのが現状です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はご本様の希望時、時間を決めずに随時行っています。排便のコントロールをする事でオムツ着用の方もトイレに座って行う事が出来る様に対応しています。逆に、夜間の安眠の為にオムツを着用される方もいます。	昼食時にマグカップで2杯程度お茶を飲むなど、水分摂取量が多い分、排尿回数も多いが声掛けをさりげなく行っている。排便に関して特にトラブルもなく、極力薬を使用せずに食事や体操等で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘だからと、すぐに薬に頼るのではなく、その方のお腹の調子にあった食品を探り積極的に摂って頂いたりしています。(牛乳などの水分、野菜など)トイレに行った際には力んで頂き必要に応じて介助をして自然排便が出来る様に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の皆様が2日に1回は入浴しています。お風呂が好きで毎日入りたい方など、常に希望に添える訳ではありませんが出来る限り対応しています。せかせかと慌たたくせず、ゆっくりと浸かって頂ける様に気をつけています。	ゆったりしてもらうため、入浴時間はおやつの後15時頃から2日に1回を目安にしている。車いすの入居者には二人で対応し、入浴の誘いを嫌がる方もトイレの後の流れで自然に入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の身体の状況に合わせて、必要に応じて臥床時間を設ける様に対応しています。過ごしやすい居室環境にも気を配っています。就寝時間は定めず、休みたい時間にお休みになって頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人、与薬方法を定めています(義歯を外して飲む・直接口に薬を入れる等)。また、薬がその方に合っているのか?今も必要なのか?等の課題に対しては、医師や看護師、ご家族様と相談をする様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時には職員と1対1でお出かけをして気分転換を図っています。季節毎の行事を計画(花見・祭り。クリスマス・遠足等)し、季節感を感じて頂ける様に工夫しています。また、ご本人様の得意な事などでお手伝いをして頂き生活の張り合いになる様に心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日の際に、ご本人の行きたい所や、やりたい事を伺って、叶えられる様に計画を立てました。事によっては、ご家族様に同行をお願いし、ご協力も頂きました。(お寿司を食べたい。動物園に行きたい。着物を着たい等)職員だけでは叶えられない事も、ご協力のおかげで出来ました。	家族の来訪が多く、家族と一緒に遠足や敬老会に出かけている。日常の散歩では近所の農家の有人販売で話しをするなど、地域の方と話す機会が多い。"チーム浜屋"としてインスタグラムにその日常をアップし外部への発信もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金は事務所で管理していますが、御本人様が使いたい時に使える様にご自分で管理していたり、紛失の可能性がある方に対しては職員が預かっています。その場合、訴えがあった時にはすぐにお渡しする様にしています。		
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住んでいるご家族様とテレビ電話をして顔を見て話をしたり、仲の良い友人様との文通(切手購入・投函等)への援助を行っています。夏の暑中見舞いや年賀状もご自分で宛名や一言を書いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には「家」を基準としているので、子供っぽい物や季節に合わない物は飾っていません。ハード面が和風の造りになっているので、その良さを入居者様を初め、どの方が見ても違和感のない設えになる様に気を配っています。	格子戸の玄関を開けると土間があり、昭和の時代を感じる造りである。広い廊下を挟んで食堂と居間、応接室と目的別に部屋を使用することを意識している。海風が通り抜ける作りで快適な居心地の空間で、懐かしい黒電話とテレビは今でも現役である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外のパブリックスペースも活用し、過ごしたい所で過ごせる様な環境だと思います。過度に声掛けをするのではなく、ご本人様のペースで過ごせる様な配慮をしています。あえて死角が多いのも施設の特徴で、一人で居たい空間作りが出来ていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が使い慣れた家具を持参して頂き、設置しています。(仏壇などもある)置きたい物と安全性を考えた配置にする事で、使いやすく、くつろげる居室になる様にしています。それぞれ個性のある居室になっていると思います。	事業所全体はシックな雰囲気です。居室には思い思いの品が置かれています。家族の写真を飾ったり、手作り品を並べたりとその人らしさを感じられる。以前は畳だった2階の居室もフローリングに変えて生活しやすいように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の特徴として、あえてバリアフリー化していない場所や、死角を多く作っている点があります。今まで過ごしてきた家庭のハード面がここにもある事で、「出来ること」の継続に繋がると思っています。その分のリスクもあるので、事故に繋がらない様に職員も意識を高く持つようになっています。		